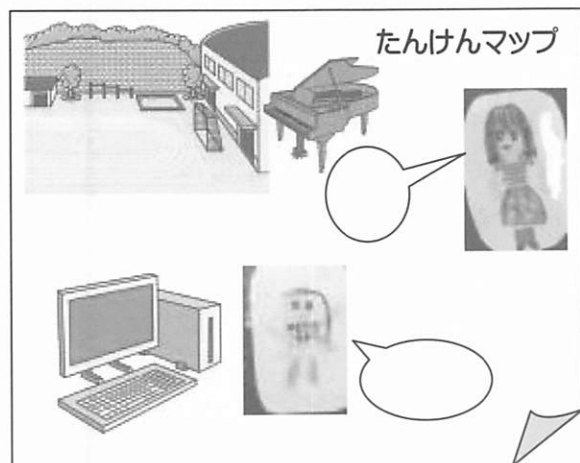


マップあれこれ

ここが
ポイント

マップは子どもの発達に合わせて

1年生の場合、まだ校内地図を見て位置を把握するのは難しい場合もあります。最初のうちは、音楽室のピアノやパソコン室のパソコンなど、目印になりそうなものを絵や写真で表示して、その近くに自分のミニチュアを付けて吹き出しにコメントを書くようなものでも構いません。

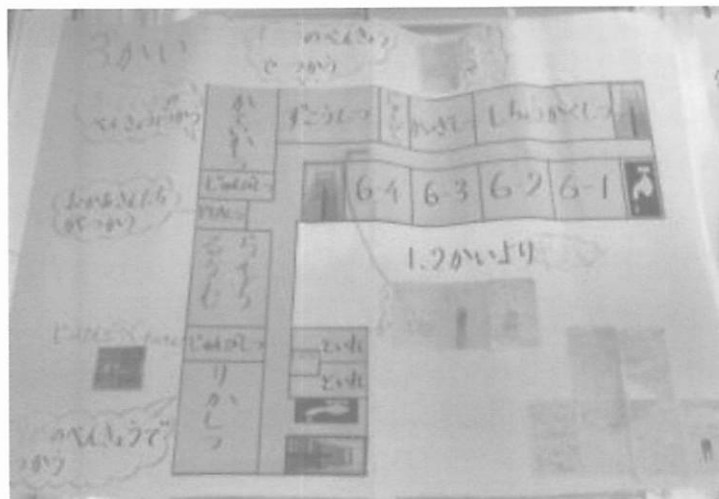


※吹き出しの代わりに付箋でも良いでしょう

Active

「何を見て」「どう感じたか」を表出することが、まずは大事にしたいことです。そうすると、最初から「校内地図」を用意する必要はありません。

段階的に、いわゆる「地図」に子どもの発見を位置付けていくのが良いでしょう。



探検の具体例でも取り上げましたが、マップは階ごとに用意し、探検の度に情報を付け加えていきましょう。発見したことが増えていくことを、マップにも見えるようにしていくと、子どもの意欲にもつながります。

ここが
ポイント

階ごとの情報を掲示→日常的に情報を追加



部屋ごとの発見を書いたカードは、子どもたちが互いに見合える状況にしておくのが良いと探検の具体例で取り上げましたが、ここで掲示の方法について紹介します。左の写真は、板状のダンボールを貼り合わせて三角柱の状態にしたものです。ワークスペースや廊下などに常に置いておき、好きな時に情報を付け加えられるようにしていきます。必要ない時は、折りたたんで収納することもできますので、この方式はなかなか便利です。子どもも楽しんで情報を追加するようになりますよ。

ここが
ポイント

写真を活用して子どもの目の付け所を明らかに！



マップと合わせて活用すると効果がありそうなのが「教室の写真」です。教室の4方向を写真に撮り、つなぎ合わせていきます。そこに、気付いたことをミニチュアを使って表現していきます。上の写真では、「目の付け所」にシールを貼ってみました。言葉で表現するだけでなく、自分がどこに目を向けているのか、友達目の付け所はどこかを知ることが明らかにする活動を通して、その後に言葉や絵で表現させることも効果的です。